

リフォーム用遮断ルーフ^{ジーアール}Gr

— 遮熱材付屋根用断熱パネル —

<ニチハ施工基準>

リフォーム用遮断ルーフGr

工 法	既存下地
重ね葺き	木造 鉄骨造

1) リフォーム用遮断ルーフGr施工基準

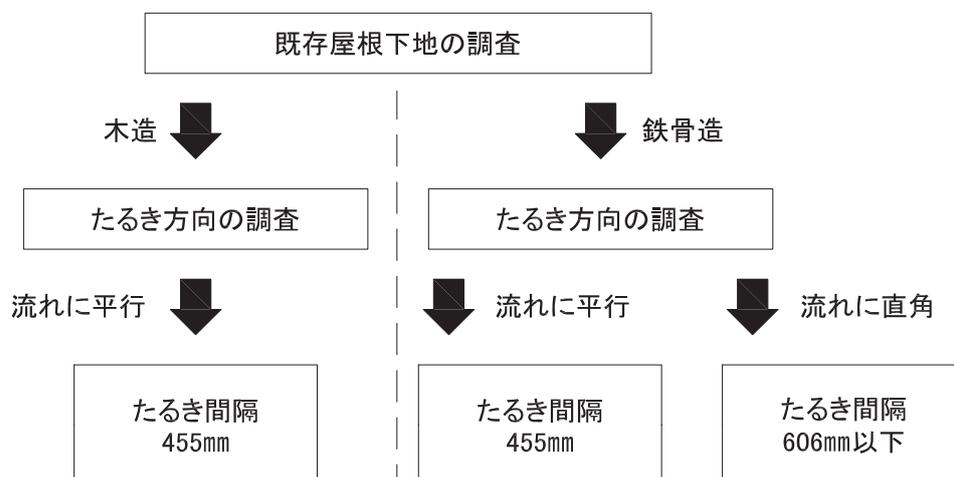
項目		条件
適用既存屋根条件	施工高さ	13m以下
	構造	木造 および 鉄骨造
	たるき	木造:断面寸法45×45mm 以上 鉄骨造:鋼材厚t=1.6~2.3mm
	たるきピッチ	木造:455mm 鉄骨造:流れに平行455mm 流れに直角606mm以下
	重ね葺き適用仕上げ	新生瓦、シングル、平葺き・横葺き金属屋根 等
リフォーム用遮断ルーフGrの施工	新規たるき	断面寸法:45×45mm
	新規たるきピッチ	455mm
	新規たるきの留め付け	木造:パネリードⅡ+ @500以下 鉄骨造:リーマテクスネジ @606以下
新規屋根の施工仕様	野地板	新規仕上げ材の施工仕様に準ずる
	ルーフィングシート	新規仕上げ材の施工仕様に準ずる
	仕上げ材	指定無し ※

※重ね葺きを行うと屋根の重量が増加する為、構造の安全性については十分確認を行ってください。
リフォーム用遮断ルーフGrの㎡重量は約1.4Kg/㎡です。

○パネリードⅡ+について

製造元: シネジック株式会社
問い合わせ先: 022-351-7330
(旧 東日本パワーファスニング株式会社)

2) 既存たるき間隔の確認フロー



3) リフォーム用遮断ルーフGrの使用をご検討される際の留意事項

- ・既存屋根葺き材に石綿含有製品を使用している屋根へ重ね葺きを行う際は、『建設物の解体工事等における石綿粉じんへのばく露防止マニュアル』に記載の作業レベル3と同等のばく露防止措置が求められる場合があります。作業内容については既存屋根材販売元、もしくは労働基準監督署にお問い合わせください。
- ・リフォーム用遮断ルーフGr施工前に既存たるき・野地板等が健全な事を確認してください。
- ・下屋根等にリフォーム用遮断ルーフGrを使用される場合、壁止まり部の既存外壁を撤去し、通気可能な雨押さえ板金を使用して防水施工してください。
- ・既存屋根材を撤去する場合、軒先1m部分はルーフィングシートを増し張りしてください。
- ・リフォーム用遮断ルーフGrの遮熱効果を得る為には、通気の吸気口・排気口を設ける必要があります。
- ・本工法で施工した屋根上への太陽光パネル設置可否判断については、太陽光パネルの製造メーカーにお問い合わせください。
- ・リフォーム用遮断ルーフGrはリフォーム専用商品です、新築には使わないでください。

4) 取り扱い注意事項

- ・紫外線により物性の低下劣化する事があります。納品後はシート等で養生をして水分の接する場所や直射日光を避けるように保管してください。また、ロープ掛け等により飛散防止措置を行ってください。
- ・鋭角な器物との衝突や角当ては、損傷の原因になりますので避けてください。
- ・プラスチック系断熱材を使用していますので、輸送・保管・施工の際は火気には十分にご注意ください。
- ・安全使用温度範囲は-80℃～100℃となっておりますが、常時高温で使用した場合は物性の低下をきたします。
- ・防音効果はございませんので、雨音などに十分注意して施工してください。
- ・別売りの一液型発泡ウレタンは、缶に記載の取り扱い注意事項を守ってお使いください。

5) リフォーム用遮断ルーフGr 作業時の注意事項

- ・遮熱層は日射の照り返しが強い為、サングラス等の保護眼鏡をしてください。
- ・遮熱層面は滑りやすいので、作業には十分注意してください。また、雨・雪等の悪天候時は安全に配慮してください。
- ・局所加重や衝突などにより割れる事がありますので、施工時にはたるきの無い場所には乗らないでください。
- ・安全関連の法令を遵守して作業してください。
- ・残材や廃材は、直ちにポリ袋等に入れて密封し、産業廃棄物として関係法規に基づき適切に処理してください。
- ・照明器具等の熱を発生させる器具等の周囲にリフォーム用遮断ルーフGrを施工する場合は、100mm以上の適切な距離を設けてください。

6) リフォーム用遮断ルーフ免責事項

- ・本説明書に記載した取扱注意事項が行われず発生した不具合。
- ・設計者、施工者等使用者の指示した仕様・施工方法に起因する不具合。
- ・設計者、施工者等使用者から支給された材料・部品に起因する不具合。
- ・施工者による施工、取り扱いに起因する不具合。
- ・建物の構造・下地の変形・老朽化や外部からの衝突等、弊社製品以外の外的要因により発生した不具合。
- ・使用者もしくは第三者の故意または過失による不具合。
- ・開発、製造、販売時に通常予想される環境等の条件下以外における使用・保管・輸送等に起因する不具合。
- ・地震、台風等の天災、火災等の特殊要因が原因により発生した不具合。

リフォーム用遮断ルーフGr

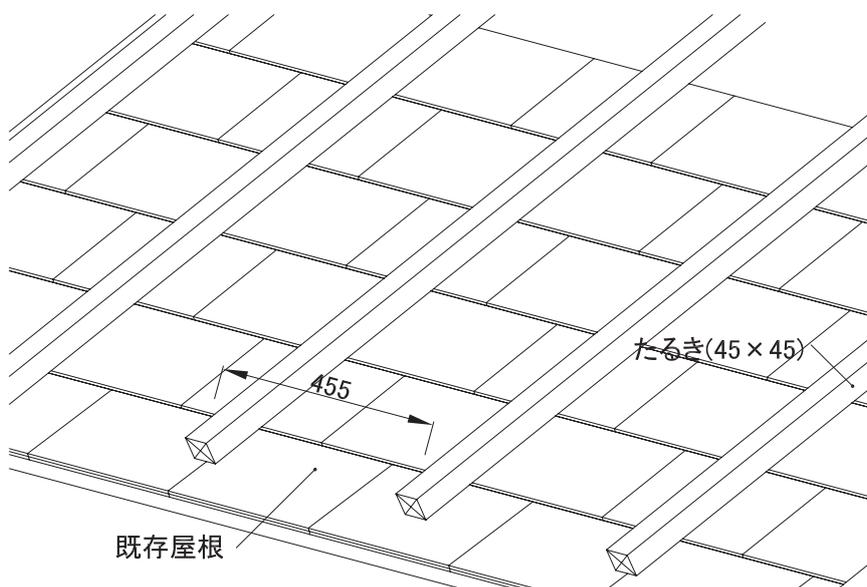
工法	既存下地
重ね葺き	木造 鉄骨造

■たるきの施工

- 断面寸法が45×45mmのたるきを455mmピッチで施工します。既存屋根を撤去しない場合は、既存屋根に先穴を開けてから、たるきを留め付けてください。この際、たるきは必ず既存たるきに留め付けてください。既製サイズのパネルを嵌め込むため、たるきの施工寸法精度に十分ご注意ください。
- たるきは既存屋根の軒先より、80mm程度控えて施工してください。
- たるきの留め付けは指定のネジを使い、既存下地が木造の場合は@500mm以下、鉄骨の場合は606mm以下で行います。ネジの長さは既存のたるきに木造の場合は40mm以上、鉄骨の場合は30mm以上かかる様に選定してください。

【注意事項】

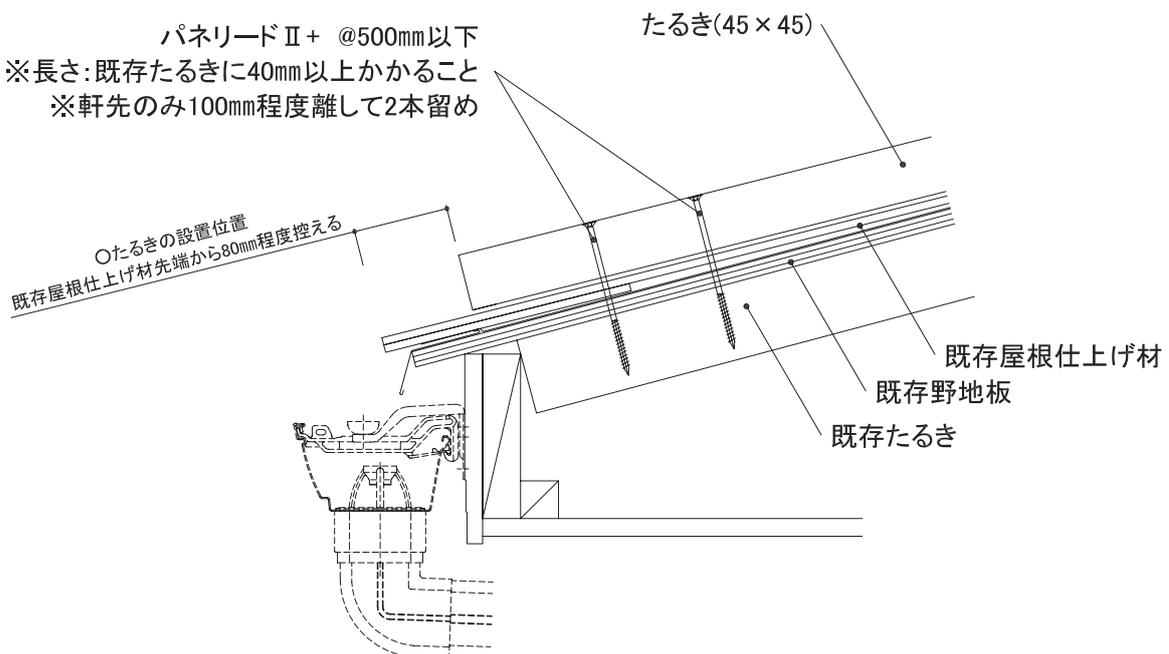
- 遮断ルーフ用のたるきは、必ず既存たるきに留め付けてください。
- 既存たるきの断面寸法が45×45mm以上であることを確認してください。



指定たるき留付ねじ
木造
パネリードⅡ+
※既存たるきに40mm以上かかる事
鉄骨造
リーマテクスネジ
※既存たるきに30mm以上かかる事
(例)ねじの長さ選定 木造編
ネジの長さ=45+6×2+12+40(ねじのかかり代) =109 → L=110mm

■施工断面図 たるきの設置

- パネリードⅡ+ @500mm以下
- ※長さ: 既存たるきに40mm以上かかること
- ※軒先のみ100mm程度離して2本留め



リフォーム用遮断ルーフGr

工法	既存下地
重ね葺き	木造 鉄骨造

■リフォーム用遮断ルーフGrの取り付け

○たるき間に遮断ルーフを取り付けていきます。遮断ルーフはたるき先端より、20～30mm程度控えて施工してください。

遮断ルーフを取り付けた後、同梱の断熱材固定部材で断熱層を押さえます(6箇所/枚以上)。

※断熱材固定部材は粘着層付きですが仮留め用の粘着層の為、断熱材固定部材の固定はタッカーを使用してください。

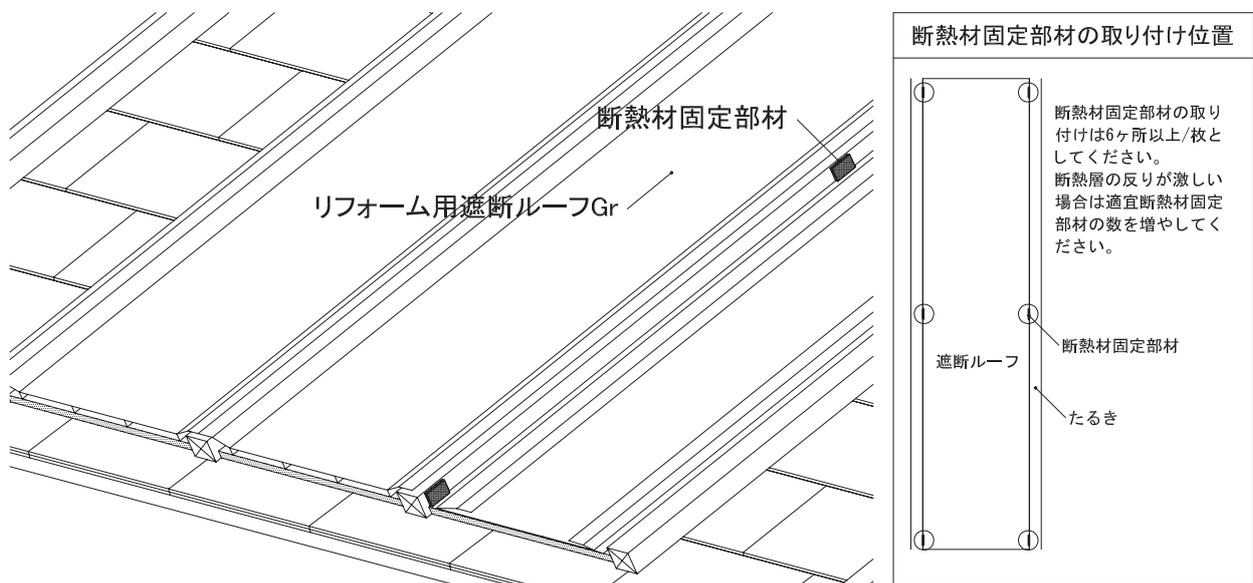
○断熱層を断熱材固定部材で押さえた後、遮断層を立ち上げ、たるきにタッカーで留め付けます(@300mm程度)。

○遮断ルーフの継手部分は通気層を連続させるため、遮断層の屋外側にアルミテープを張ってください。

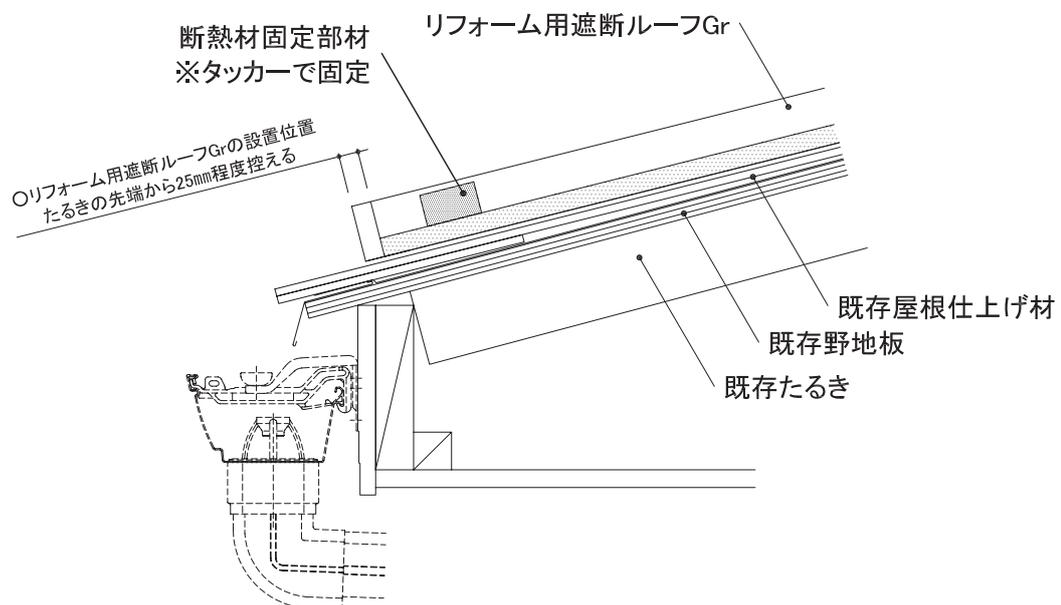
○棟等の張り終い部は、たるきの長さに合わせて遮断ルーフを加工します。

○遮断ルーフを施工した部分は随時野地板を張ってください。

○野地板の種類・厚み・施工方法については屋根仕上げ材の施工仕様に準じてください。



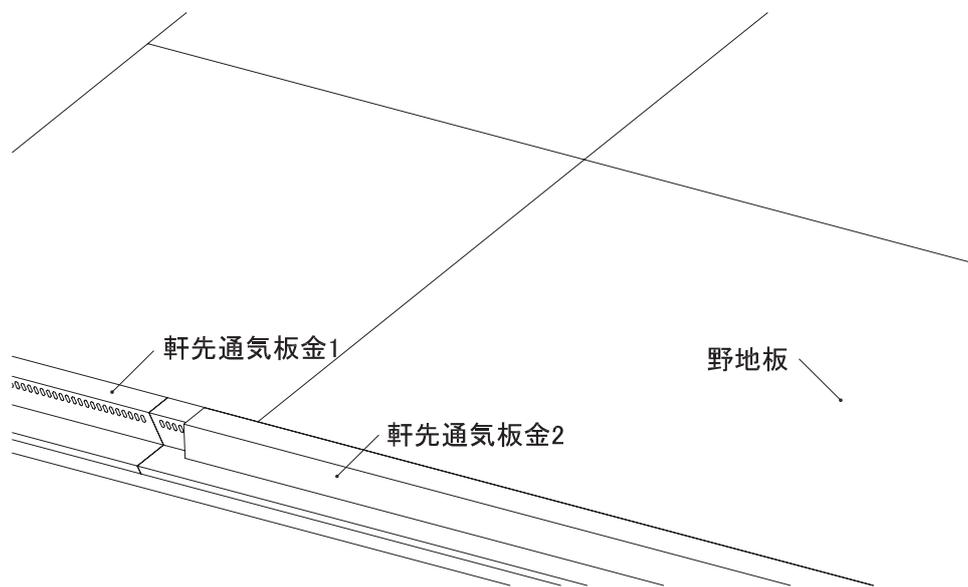
■施工断面図 リフォーム用遮断ルーフGrの取り付け



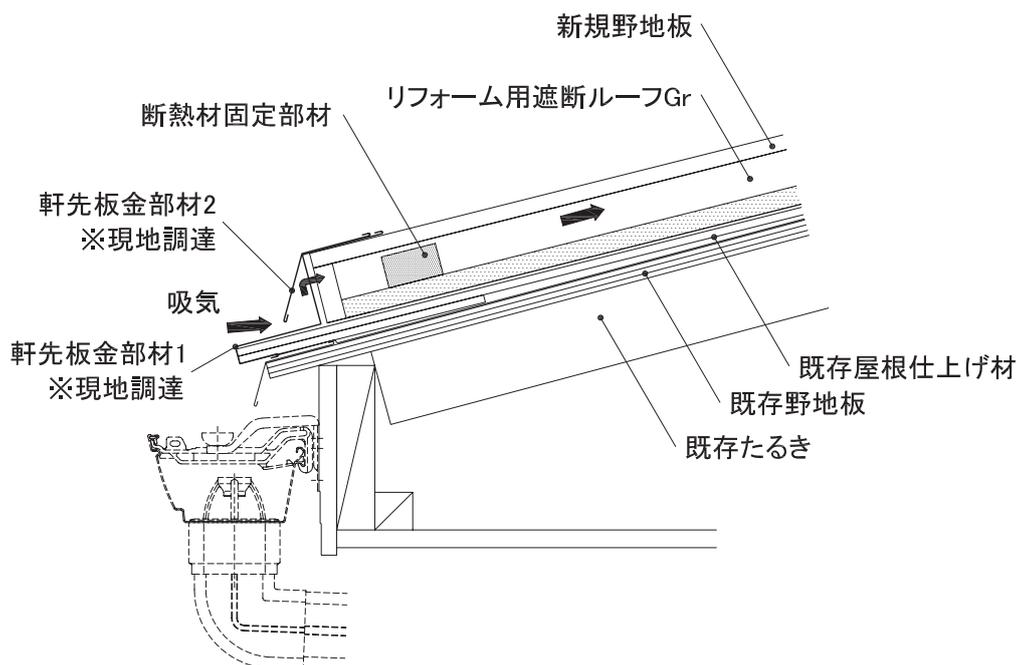
工法	既存下地
重ね葺き	木造 鉄骨造

■ 軒先板金の取り付け

- リフォーム用遮断ルーフGr・野地板を施工後、軒先に通気板金を施工します。通気板金の形状・サイズについては参考図を参照の上、現地調達してください。
- ルーフィングシートの施工については、新規屋根材の施工仕様に準じてください。
- ケラバ部は既存ケラバ板金を飲み込む様な形状とし、現地調達してください。
- 棟部等の通気の出口も棟換気にする等、排気出来る収まりとしてください。



■ 施工断面図 軒先板金の取り付け

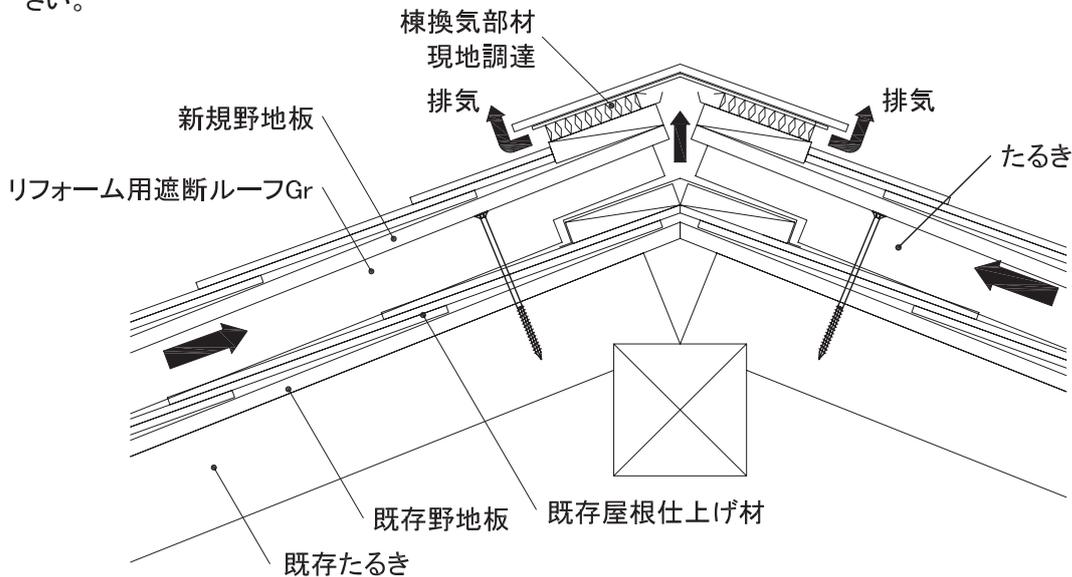


リフォーム用遮断ルーフGr

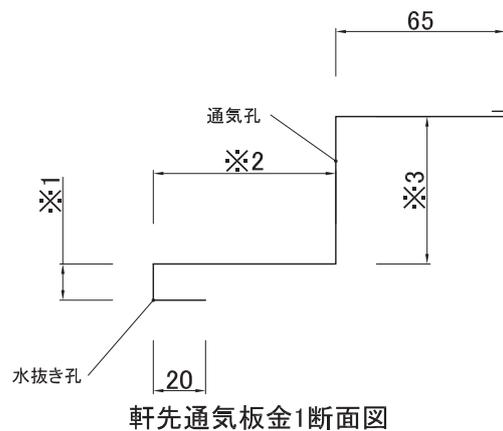
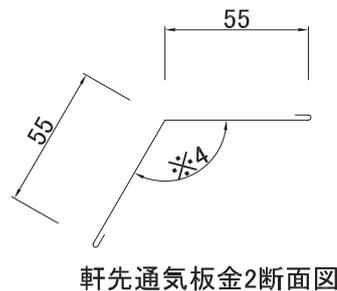
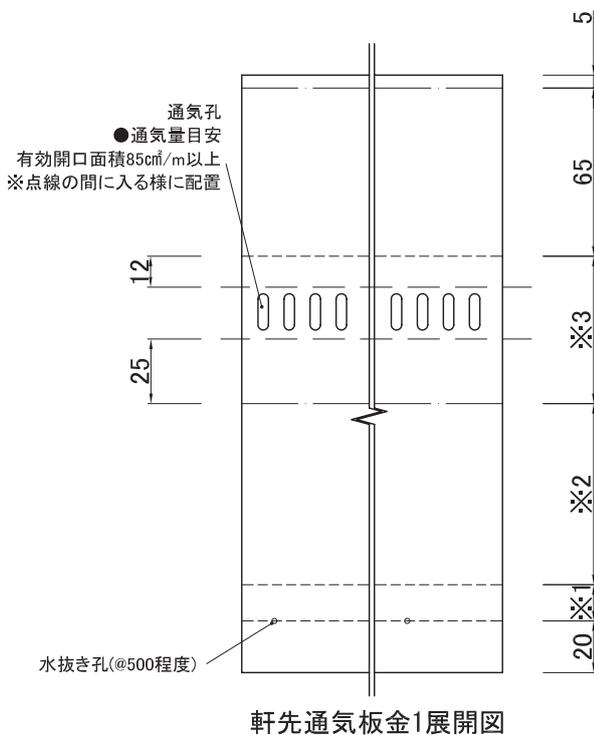
工法	既存下地
重ね葺き	木造 鉄骨造

■ 施工断面図 棟部の収まり

- 棟部は通気の出口を設ける為、必ず棟換気部材を使用してください。
- 既存屋根の棟包み板金は撤去する必要はありません。たるき端部を加工して取り付けてください。
- 既存屋根が棟換気を行っている場合は、リフォーム用遮断ルーフで換気口を塞がないよう注意してください。



■ 軒先通気板金 参考図



-----	山折り
-----	谷折り
※1	既存屋根仕上材の総厚 + 2mm
※2	5寸未満: 70mm以上 5寸以上8寸未満: 80mm以上
※3	45mm + 野地板厚み
※4	5寸未満: 120度 5寸以上: 135度

○推奨メーカー
株式会社ヨネキン <http://www.yonekin.co.jp>

営業部 : 大阪府和泉市テクノステージ1-5-7

TEL 0725-51-3030 FAX 0725-51-3040

東京支店 : 東京都中央区日本橋本石町4-5-12 友泉本石町ビル9F

TEL 03-3517-3131 FAX 03-3517-3132